

○大気の状態を把握し、より効率的に県内の大気を監視する

「大気環境の現状評価に関する解析モニタリング」(2008年－2010年)

コーディネーター: 園 正

発生源データ等によるシミュレーションや濃度測定データ等により、大気の状態を把握・解析するとともに、自動測定局による大気環境モニタリングにおける課題を抽出し、適正かつ効率的な測定局の配置および光化学オキシダント監視体制を検討します。

研究の概要

滋賀県では、大気汚染防止法に基づき、昭和47年(1972年)から大気汚染常時監視測定局を設置して、大気汚染の状態を監視しています。

その経過をみると、近年特に、光化学オキシダントの濃度が徐々に増加しており、光化学スモッグ注意報の発令地域数も増加傾向にあります。

こうした背景には、交通網の整備や工場の立地、人口の増加といった社会状況や滋賀県の大気環境を取り巻く周辺状況などの大きな変化があると考えられますが、これらの影響を受ける大気環境を的確にモニタリングできているのかどうかについて検討を行う必要があります。

ここでは、大気環境の現況データの収集をはじめとして、光化学オキシダントのシミュレーションによる動態把握、窒素酸化物や硫黄酸化物といった大気汚染物質の濃度分布の拡散モデルを用いたシミュレーションと実測による検証などを通して、現行モニタリングの課題抽出、体制の評価を行います。

